



英語アドバンスト科目Contemporary Academic Listening クラスにおけるリスニング・スピーキン グ並行学習の試み: 受講生の授業に対するアンケート 結果に基づく分析

横川, 博一

(Citation)

神戸大学国際コミュニケーションセンター論集, 4:105-122

(Issue Date)

2007

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81000970>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000970>



英語アドバンスト科目 Contemporary Academic Listening クラスにおけるリスニング・スピーキング並行学習の試み —受講生の授業に対するアンケート結果に基づく検討—¹

横川 博一²

1. はじめに

英語の授業でリスニング力をつけるにはどうしたらよいか。本稿は、筆者がこれまでにに行った授業実践の（成功、失敗の）試行錯誤の経験およびいくつかの実証的データによる知見などに基づき授業設計を行った、「英語アドバンスト科目：Contemporary Academic Listening」（2007年度後期、2年次生以上対象の選択科目、以下、Advanced-Listening と略す）の概要を報告し、受講生に対する事後アンケート調査に基づき、よりよい授業のあり方について考察するものである。

1.1 授業の失敗から見えてくるもの

まず、これまでの授業を振りかえって、問題点を考えてみたい。筆者がこれまでに行ってきた、英語リスニング力の養成に主眼をおいた授業では、多くの失敗がある。一般に、リスニングの授業と言えば、授業でCDやカセットテープなどを使って何度か音声聞かせて、内容理解度のチェックをするということがよくとられる方法である。しかし、何度聞かせれば十分なのだろうか。一度聞けば理解できる学生もいれば、三度聞いても理解できない学生もいる。また、授業時間の制約もある。10分程度のものであれば、三度も聞けばそれだけで30分を費やすことになり、授業時間の大半を、音声を聞いて終わり、ということになってしまう。興味深いことに、話の概要を捉える質問には比較的答えられるが、ディクテーションを行うと、細かいところが正しく聞き取れていないという問題もある。

こうした方法には、(a) 学生のリスニング力の個人差に対応できていないこと、(b) この種の授業は音声さえあれば、授業外でもできるということ、(c) このような授業を繰り返していけば、本当にリスニング力が伸びるのかどうか、実感をもたせることが難しいこと、などの問題がある。他にも、(d) インプットの量がきわめてかぎられてしまう、(e) テスト形式の授業になってしまい、学生はひたすら聞くだけで、授業にも活気が出ないことが多い、という問題もそこから派生してくるが、言い換えれば、このような授業では、聞くことの目的が希薄になっているとも言えるだろう。

¹ 本稿における実践および調査は、平成17-19年度科学研究費基盤研究(C)「大学導入教育における英語スタディ・スキルズ育成のためのカリキュラムおよび教材開発」(研究代表者：横川博一)の一部をなすものである。

² 神戸大学国際コミュニケーションセンター yokokawa@kobe-u.ac.jp

こうした過去の授業実践の反省から, (a) リスニングの量を確保し, 個人差に対応できないか, (b) 学生自らが積極的にリスニング活動に取り組むことができるような課題設定ができないか, (c) 内容理解をテスト形式でチェックするだけでなく, 内容理解および細部の聞き取り能力の向上も含めて, リスニング力を高めるような課題設定ができないか, ということを考えてみる必要がある。

1.2 オーラルの力はどのくらい伸びるのか

次に, 日本人大学生のオーラル面の能力(proficiency)はいったいどのくらいだろうか. また, 授業やその他の課外活動によって, それはどのくらい変化しうるものなのか, さらに, それは授業設計にどのような示唆をもつのか考えてみたい。

横川・鈴木(2006)では, 海外短期英語研修参加者(豪州・メルボルン大学, 3週間, 35名)と筆者の2年次選択英語クラス(「英語リスニング」, 40名, 4~7月)を対象に, 米国カリフォルニア州に本社を置くHarcourt/Ordinate社開発の口頭英語能力自動試験「PhonePass SET-10」(現在は, Versant for Englishに改称)を事前・事後に実施し, その結果を比較した。

PhonePass SET-10は, 口頭による英語能力を直接測定するもので, 電話で受験し, 自動採点される。また, 総合点(Total)と文章構文(Sentence builds), 語彙(Vocabulary), 流暢さ(Fluency), 発音(Pronunciation)のサブスコアが20~80点の間で報告される。その結果を, 表1および表2に示す。結果をまとめると, 海外短期英語研修参加者は, 総合点, 文章構文, 流暢さの項目で有意にスコアが上昇したのに対して, 語彙, 発音の項目では有意差が見られなかった。一方, 英語リスニング受講者は, 語彙の項目のみ有意に上昇した。

表1. 海外短期英語研修参加者の平均スコア (単位:点)

総 合	文章構文	語彙	流暢さ	発 音
35.91	35.12	35.55	38.12	37.55
38.90	38.13	36.87	41.06	39.16

表2. 英語リスニング受講者の平均スコア (単位:点)

総 合	文章構文	語彙	流暢さ	発 音
36.24	36.55	33.05	38.33	37.24
37.43	36.41	36.67	38.89	38.37

横川・鈴木(2006)では, こうした結果を次のように分析した。海外短期英語研修では, リスニングとスピーキングを同時並行的に学習することによって, 統語処理(parsing; sentence building)の自動化がある程度行われ, それによって流暢さも上昇したと考えられる。一方, 英語リスニングでは, リーディング教材に基づくかなりの量のリスニング(多くは, 内容理解とディクテーション)によって, 語彙力が身についたと考えられる。ただし, PhonePass SET-10のVocabularyは語彙数を評価するものではなく, 語彙へのアクセス(access)・検索(retrieval)の能力を反映したものと考えられるため, このような学習によって, 語彙の増加, 語彙へのアクセス・検索の自動化をある程度促したものと考えることができる。

このような結果からも、経験的にはよく言われていることであるが、リスニング活動と並行してスピーキング活動も合わせて行う方が、言語運用能力の伸長には効果的であると考えられる。

1.3 教材の選定:語彙をどう扱うか

最後に、Advanced-Listening でどのような教材を選定するのが適切かを考えるために、日本人大学生のオーラルでの使用語彙について考えてみたい。横川(2007)では、横川・鈴木(2006)で収集した発話データを分析した。PhonePass SET 10 の中に、Part E. Open Questions というパートがあり、質問は3問、解答時間は20秒、内容は個人の意見[例: *Do you think television has had a positive or negative impact on family life? Please explain.*]や好み[例: *Do you like playing more in individual or in team sports? Please explain.*]を問うもので、一般的な話題である。発話はすべて書き起こされ、使用語彙を分析した結果、I, UH³, BE, BECAUSE, TO, THE, AND, CHILD, THINK, IN, MY, SO, IT, NOT, LIKE, CAN, VERY, WANT, FOR, OF の20語で全発話の50%を占め、WE, FAMILY, GOOD, SHOULD, THEY, A, DO, HAVE, MANY, MORE, WITH, IMPORTANT, PLAY のわずか13語を加えると約60%を占めることが分かった。また、発話に使用した語彙を、頻度(frequency)の観点から見ると、発話に使用されたほとんどすべての語が British National Corpus の頻度3000語の中に現れる語であったが、その種類はきわめてかぎられた範囲のものであった。一方、親密度(familiarity)の観点から見ると、語彙占有率80%までは、ほぼすべての語が親密度評定値6ポイント台の高親密度語を使用していることが分かった。⁴

このようなデータから、リスニング、スピーキングといったオーラル能力育成の観点からは、内容のあることを言うためには、もっと多様な語彙を使う力が必要だと思われるが、まず、生起頻度のかなり高い語で、親密度も高いものを、聞いたり話したりする場面で使える語彙に習熟することが、緊急の課題であるように思われる。

2. 授業デザイン

前節での考察に基づき、授業設計にあたっては、以下のような点に留意した。

- できるだけインプットを多くし、聞く量を確保する。
- リスニング力は個人差があるので、各自が好きなだけ何度も繰り返し聞けるようにする。
- 内容理解力を高める有効な方法であることが知られているノート・テイキングの手法を取り入れ、それを授業のベースに据える。
- リスニング能力の育成を主眼にした授業であるが、スピーキング活動も取り入れ、並行学習を進める。
- リスニング活動の目的を明確にする。
- 基本語彙およびアカデミック・ボキャブラリーに習熟できるよう、テキストおよびリスニング教材の選定にあたっては留意する。

まず、授業目標を次のように設定した。受講生の専攻分野や興味・関心に対応し、アウトプットする際の表現形式や論理展開にも参考になるように、「英語によるレクチャー」を教材とし、それが聞き取れるようになるこ

³ UH とは、いいよどみの発話すべてを含むものである。

⁴ ここで言う「親密度」とは、横川編(2006)に収録されている、日本人英語学習者を対象に実施した英単語親密度評定値を使用したものである。数値は、「当該単語を「よく見聞きする度合い」を7段階評定した平均値であり、1に近いほど親密度が低く、7に近づくほど親密度が高くなる。

とを目的とした。

- 授業目標：科学、情報、社会、文化、言語など、現代のさまざまなトピックに関する英語のレクチャーを、的確かつ効率的に聞き取る力を養成する。いわゆる Academic Vocabulary を増やししながら、ノート・テイキング、サマライゼーション、リプロダクション、ディスカッションなど、海外での大学でも通用するスタディ・スキルズを総合的に身につける。

次に、授業の計画と内容については、次のような3つのコンポーネントを設定し、A: Developing Your Academic Listening Skill は毎行い、B: Basic Oral Proficiency Practice と C: Extensive Listening を隔週で組み合わせて行う、つまり A+B または A+C のパターンで授業を行うこととした(表3参照)。

表 3. 授業の3つのコンポーネント

A: Developing Your Academic Listening Skills
テキストを使って、レクチャーを聴き、展開法に慣れ、語彙を増やす。また、リスニング力をつけるために、聴いた内容についてレビュー、質疑応答、意見交換などを行う。
1. [授業外活動] 指定された範囲のレクチャーを聴き、ノートをとる。また、テキストの演習問題を行う。授業で解答を確認する。 2. [授業内活動] グループで、担当者が、あらかじめとったノートに基づき、レクチャーの内容を分かりやすく英語で解説する。それに基づいて、Question & Answering, Discussion を行う。(40 分) 3. [授業内活動] 毎回、Writing Assignment を課す。(10 分)
B: Basic Oral Proficiency Practice
耳慣らし、口慣らし。リスニング・スピーキング力の伸長に必要な基盤作りを行う。(40 分)
1. Reading aloud (Pausing, Stressing, Weak forms, Assimilation, Elision, Intrusion, Intonation) 2. Repeating 3. Sentence Building
C: Extensive Listening (Shared Listening / Pleasure Listening)
CALL 教室を使用する回は、さらにリスニング力を高めるため、用意されたレクチャーの中から、各自が選んで聴き、ノートを取り、概要をまとめたり、聞いた内容について報告する。(40 分)
1. さまざまなトピックについてのレクチャーを聴く。 2. さまざまなトピックについて、自分の興味・関心、レベルにあわせてレクチャーを聴き、ワークシートの課題をこなす。

A. では、レクチャーの音声は、授業外で聞くこととし、受講生が自分の能力に合わせて好きだけ聞けるようにした。同じものを何度も聞くこともインプットの量の確保につながる。しかし、これだけでは何度も聞く保証はないので、授業では、レクチャーを聞いてノート・テイキングをすることを課題とし、担当者はノートをもとにハンドアウトを作成し、小グループでハンドアウトに基づいてリプロダクションをすることとした。また、担当者

以外の受講生は、発表者に内容に関する質問をし、全員でディスカッションをすることを授業中のメインの活動に設定した。こうすることで、発表したりディスカッションするためにレクチャーを聴くことになり、目標が明確となると同時に、その分真剣に取り組んでくれることを期待した。発表するためには、全体の概要をとらえ、展開を把握し、細部も聞き取る必要がある。また、最後に、概要をまとめるような課題を出すことによって、文字できちんと表現できることを目指した。なお、活動と時間配分は、リプロダクション＋質疑応答＋ディスカッション(30分)、スクリプトの配布・解説など(10分)、Writing Assignment(10分)とした。

B. では、リプロダクションのための基礎的な訓練として、聞き取りと発音練習を行い、ディスカッションも含めて発話能力を高めるために、リピーティングや文の構築練習を音声で行うこととした。時間は、40分を充てることとした。

C. では、教材のレクチャー以外に、筆者のホームページに開設した授業ページに、レクチャー(映像あり、映像なし)をいくつか用意し、授業内で好きな者を選んで聞いて、ノートを取り、小グループを作って、その内容を報告するという、いわゆる Shared Listening を行うこととした。これにより、さらにインプットの量を確保し、かぎられた時間で聞き取り、それをまとめて英語で報告することができるという、時間的制約の中で訓練を行うことができると考えた。また、自分で好きなトピックを選んで聞くことができるということも、リスニングの楽しさであると考えた。時間は、40分を充てることとした。

最後に、テキストには、以下のものを選んだ。約5分程度の、さまざまなトピックのレクチャーが12本収録されており、アカデミック・ワードを英語で理解し、系統的に学べる仕組みになっている。また、ノート・テイキングのスキルが丁寧に学べるようになっており、段階を追って内容理解できるようタスクも設定されている。

- Michael Rost (ed.) *Contemporary Topics 1—Intermediate Listening and Note-taking skills*. Pearson/Longman.

授業では、ハンドアウトにもとづいたリプロダクションやディスカッションを行うこととしたが、できるだけわかりやすく説明し、相手に分かってもらおう心がけるように指導した。とくに、レクチャーに出てきた文をそのまま言うのではなく、できるだけ言い換える(paraphrasing)よう指示した。その際、テキストの Vocabulary Preview⁵を参考にとすることと、英英辞典の活用(例えば、*Longman Dictionary of Contemporary English, New edition*. Longman.)を勧めた。これは、やさしい英語で表現する力を養うことと、語彙力と文法力とを高める意図もある。

3. アンケート調査による結果と分析

ここでは、Advanced-Listening を受講した20名の学生を対象に、授業終了時に実施したアンケート調査の結果を報告し、本クラスの授業デザインを学生がどのように評価しているか、また、アンケート結果に基づき、今後の授業改善の方向について考察する。なお、本節において、●で始まる記述は、アンケート調査で受講生が自由記述した回答である(できるだけ原文に忠実に転記したが、明らかな誤字脱字、表記上の誤りについては適宜修正した。また、分析の便宜上、一文で記述されていたものを複数の文に分割したものもある)。

⁵ 例えば、次のような形式の問題があり、言い換えに役立てることができる。

If you want to *achieve* in school, you have to work hard.

To *achieve* means to _____ something.

a. succeed at b. not do c. think about

3.1 授業に対する取り組みについて

表4は、授業全般に対する取り組みについて5段階(1「全くそう思わない」、5「大変そう思う」)で評価してもらった結果をまとめたものである。まず、受講生自身の判断では、70%の学生が比較的熱心に取り組んだと回答している。また、やはり70%の学生が語学力の向上につながったと評価している。いずれも、30%程度の学生が「どちらとも言えない」と回答しているが、英語アドバンス科目は選択制であるためか、意欲的な学生が多い反面、自分自身には厳しいという面も併せ持っているため、「自分ではもっと頑張ることができたのに、課題をやらない回があった」という反省から、「その分、語学力の向上にもつながっていない」と考える学生が少なくない。教員から見れば、どの学生も熱心に取り組んでいたように思う。最後に、授業に対する満足度は、75%の学生が基本的に満足したと回答している。

表4. 授業全体について(単位:人)

観 点	評 価	1	2	3	4	5
熱心に取り組んだ		0	0	6	9	5
語学力の向上につながったと思う		0	1	5	7	7
授業全体に満足した		0	0	5	12	3

ここでは、授業全般にわたって、印象に残っていることを中心に、上記のような評価をした理由について回答されているが、授業外でたっぷりリスニング活動をしたこと、そのことによって継続的にリスニングを行うことができたこと、授業ではリプロダクションやディスカッションを中心に行なったこと、また、4～5名の少人数のグループで活動したこと、ノート・テイキングによってリスニングのみならずアウトプットする手助けとなったことなどの点で、授業に対する満足度が比較的高かったようである。

- 4人ずつでディスカッションをしたのが、自分の意見も出しやすくてちょうどよかった。
- 今までにない授業形態で、熱心に取り組んだと言うより、楽しく取り組みました。とくに授業内でやった映画の聞き取りも、とても難しくて、びっくりしましたが、それ以上に楽しかったです。この授業を通して英語がさらに楽しくなって、普段から、ニュースを英語で聞いたり、字幕を消して映画を見たりするようになりました。
- 日本人同士と言うこともあり、英語が日本人っぽくなったことがあった。Shared Listening はすごく良かったです。
- 眠くなることがほとんどなかったのも、楽しく、集中して取り組みました。授業内でリスニングをすると退屈な上に眠くなると思っていたので....
- 英語がしゃべれるようになったかったので、比較的一生懸命取り組むことができ、みんなが英語で意見を言えるようないい雰囲気ができていたのではないかと思います。
- 授業自体が、自分で考えて参加していく形だったので、楽しくできた。テーマ、ディスカッションを通じて、自分の知らなかったこと、違う意見など聞けてよかった。
- 毎週の授業と予習とで、継続的に英語に触れることができてよかったと思います。
- とても楽しく、かつ、ためになる授業でした。英語を使って話すことに壁がなくなったことが一番大きいことだと思います。「聞く、話す」の2つの作業への苦手意識がかなりなくなりました。

- 授業とても活動的で、頭をフル回転させて取り組めたので、とても意義のある90分だったと思う。
- 今までのアドバンストコースの中で一番有意義な授業でした。教材のレベルもほどよく、熱心に取り組む意欲がとてもわきました。
- アクティビティが多くあったのでやりがいがあった。また、クラスのメンバーも英語が好きでそれに対するモチベーションも高い人が多かったので、非常によかった。レクチャーを聴き取る力が少しついたと思う。
- やはり、ノート・テイキングの作業があったおかげで、熱心に取り組めたと思う。ただ、2, 3回リスニングをさぼってしまったので、毎回ハンドアウト提出でも、むしろよかったかもしれないと思った。
- 人数もちょうどいいし、全体的に満足しています。
- 英語アドバンスト科目には、はじめは単位目的で登録したが、実際受けてみると、実にはいい経験になった。リスニングとスピーキング能力は普段から継続して行っていないと能力が落ちるものなので、自分を刺激するという意味でたいへん参考になった。

次に、授業の中心的活動の一つである、グループワークについて考察する。表5は、グループワークに対して、5段階(1「全くそう思わない」、5「大変そう思う」)で評価してもらった結果をまとめたものである。ほぼすべての学生が、グループワークに熱心に取り組んだと回答しており、それが語学力の向上につながったと考えているようである。

表5. グループワークについて(単位:人)

観 点	評 価	1	2	3	4	5
熱心に取り組んだ		0	0	1	7	12
語学力の向上につながったと思う		0	0	2	13	5
グループワークに満足した		0	0	2	12	6

グループワークを授業の中心に据え、4～5人ずつのグループでさまざまな活動を行ったが、受講生は非常に楽しみながら活動を行っていた。

- ディスカッションは楽しかったです。

全授業の前半の5回は、グループ内でとくに役割を分担しなかったが、メンバー全員に発言してもらうよう促したり、ディスカッションの概要をメモにとったり、その内容を後で報告してもらったりしてもらうため、後半の5回は、Presenter(発表者)、Chair(司会進行)、Secretary(書記)、Reporter(報告者)といった役割分担を行った。自分の役割がはっきりすることで、発言することにやや消極的であった学生も、ディスカッションにさらに積極的かつ熱心に取り組むことができたようである。

- 基本的にグループワークはよかったと思うが、回によって盛り上がったり、そうでなかったりした。他の日本人が英語を話して自分の意志を伝えようとするのを聞いていると、やはり自分もやらなければという気持ちになり、よかったと思う。

- 自分の少ない単語力でいかに意見を言うか、自分の単語力のなさを痛感するとともに、いい刺激になってよかった。わりと積極的に取り組めたと思う。
- 普段人前で話すことがあまりないので、消極的な気持ちだったが、役割ができてからは、Chair や Reporter など、それぞれの仕事をしっかりとすることができた。
- やはり、よく喋る人とあまり意見を言わない人に分かれていましたが、仕事分掌もあって、最終的にはグループワークに積極的に参加できてよかったと思います。

グループワークの形式をとることによって、他の人の意見が刺激となって、自分の意見を言うきっかけになったり、他の人の発言を聞いて、表現形式も学び合うことができ、お互いにとってよい刺激になったようである。また、4～5名程度の少人数グループとしたことで、発言の機会が増えると同時に、あまり臆せず話せたようである。

- グループワークになると、誰かが発言しなくては、という気持ちが働いて、今までならずっと黙ってしまうタイプだった私も喋れるようになりました。原稿を作って話すわけではなかったので、はじめはうまく自分の言いたいことが言えずとまどったが、他の人が喋るのを聞いたりして、こんな風に言ったらいいのか、ということがわかってよかった。
- いろいろな人の考えが聞けたり、みんな英語が上手でとても刺激を受けた。
- 少人数でのディスカッションに取り組めたことがとくによかった。
- みんなレベルが高かったので、ついていこうと努力した。
- このディスカッションは本当に楽しかったです。みんないろいろな話題をフランクに話すことができ、スピーキングがとても楽しいと感じた。

グループワークの中心の一つはディスカッションであったが、トピックに対する意見や考えをもつことの難しさを感じた学生がいたことは、日頃の幅広い学習が必要であることが理解されたことであろう。また、大変興味深いことに、以下の感想にもあるように、今回取り上げたレクチャーはアカデミックなものでありながら、ディスカッションは堅苦しい無味乾燥なものにはならず、意外にも身近な話題に引き寄せて話し合うことができていたことである。

- 英語でのディスカッションは普段する機会がないので、この授業の中でできてよかった。しかし、ディスカッションをするためには、そのトピックに対する自分の意見を持ち、そのトピックに関する知識が必要で、少し難しく感じた。
- レクチャーについてのディスカッションなどを、今までやったことがなかったので、良かったです。友達との日常会話などではなく、アカデミックな内容で英語を話すことがなかったので、いい機会だったと思います。
- トピック自体が難しい時もあったけど、自分たちの身近なことや意見、考えが話せる機会があってよかった。
- 授業でのトピックから派生して、日常的なことなども言いあえたりできてよかった。

上でも触れたが、リプロダクション、質疑応答、ディスカッションといったグループワークを通して、単なる情報の交換ではなく、受講生らは、そのプロセスでさまざまなことを学んでいたようである。

- インプットするだけでなく、アウトプットする機会が多かったのがよかったです。自分ではわかったつもりになっていても、いざレクチャーの内容を述べようとなると、全然説明できなかったり、思うように喋れないことも多々あった。しかし、英語で説明しようしたり、相手の話を聞き取ろうとすることが、そのプロセスが大切だと思った。
- ディスカッションは話の進め方、話の広げ方などが身についたように思います。役立てそうです。
- どの單元においても、ハンドアウト作成者がきちんと準備をしてくれていたのも、ディスカッションも充実したものになり、グループワークをすることで、他人の意見が聞けたり、上手な言い回しなどもまねることができて、他人から得られることも多かったです。

3.2 技能の向上に対する意識

ここでは、技能の向上に対する受講生の意識について報告する。表 6 および表 7 は、それぞれリスニング能力およびスピーキング能力が向上したと思うかどうかを、5段階(1「全くそう思わない」、5「大変そう思う」)で評価してもらった結果をまとめたものである。リスニング能力については、65%の受講生が向上したと思うと回答したのに対し、スピーキング能力については、85%の受講生がそう思うと回答した。

表 6. リスニング能力が向上したと思う

評価スケール	人数	%
5: とてもそう思う	2	10
4: ややそう思う	11	55
3: どちらとも言えない	7	35
2: あまりそう思わない	0	0
1: 全くそう思わない	0	0

表 7. スピーキング能力が向上したと思う

評価スケール	人数	%
5: とてもそう思う	3	15
4: ややそう思う	14	70
3: どちらとも言えない	2	10
2: あまりそう思わない	0	0
1: 全くそう思わない	1	5

リスニング能力については、ノート・テイキングの手法を取り入れることで効果的にリスニング力を伸ばすことができたと感じており、授業外で繰り返し聞くことができることにより、継続的にリスニングを行い、耳が慣れてきたことが窺える。

- 家でノート・テイキングをやるので、何回も聞けたのがよかった。
- リスニングは今までそれほど積極的に英語を聞くことがなかったのも、週に何回かは必ず聞くようになったし、英語に触れる機会が増えたことで、耳がだいぶ慣れました。

- リスニングは少し自信がないのですが、レクチャーの内容がだいたいわかるようになってきた。ディスカッションはスピーキングに役立ったと思います。
- 耳を傾けないとノートがとれないので、注意して音を聞くことができました。このやり方は初めてだったのですが、これからも続けていきたいです。
- 授業内でリスニングするのではなく、自宅で何回も聞ける授業形態はとてもよかったと思います。
- 授業でやるレクチャーは家で何度も聴けたので、リスニング能力が伸びたかは、あまり実感はわかりなかった。でも、はじめの頃は何度も止めて聞いていたが、最後の方はほとんど止めずに聞けるようになった。スピーキングに関しては、グループワークがすごくよかったです。
- いろいろなテーマを聞き、ノートをとったために多くの量の英語を聞くことができたので、リスニング能力の向上につながったと思う。もともとリスニングは不得意ではなかったのですが、英検やTOEICなどで長いものを聞くと途中で話が切れてしまったりして、聞き取ることができませんでした。この授業で長めのリスニングをノート・テイキングして整理しながら聞くことで、頭の中で整理しながら聞くと言うことに慣れました。あとは自分のがんばり次第です。
- ノート・テイキングをはじめとする書きとろうとする試みや、CALL 教室で多くリスニングの練習やレクチャーを聴いたので、そのプロセスで力になった。また授業での発表もよかった。
- 夏休みに1ヶ月海外で生活したときに耳が慣れたのを持続させるのに効果があったと思います。
- 比較的長い英文を何回も聞いたことは有意義だったと思う。また、ディスカッションもためになりました。

しかし、教材のレクチャーがTOEFLなどに比べて、スピードや話し方などの点で「聞き取りやすい」と感じることや、教材の難易度がテキスト全編を通じてあまり変わらないことからなど、全般的なリスニング力の向上に大きくつながったとは感じていない面もある。また、リスニング力を測定する機会がなかったため、リスニング力が向上したかどうかを客観的に知ることができなかったことも、全般的なリスニング力の向上に大きくつながったと感じていないことの要因の一つになっていると考えられる。

- 聞いてから話さなければならなかったのも、どちらも一生懸命になれた。しかし、リスニングに関しては自分の努力が足りなかったように思う。
- リスニングをする機会が増えたことはよかったが、TOEFL に比べると(スピードなどの点で)聞き取りやすいものだった。週に1回定期的に英語を話す機会ができたことはよかったと思う。
- リスニング力がついたと思うが、どうしても英語学習者向けに作られていることもあって、*natural speed*ではないのが少し気にかかった。TOEFL の試験の音声はより自然体であって、やはり身が引き締まる。一方、スピーキングについては、話す機会があまりないのでたいへんいい経験になった。
- リスニング能力については、Unit 1 と Unit 11 のレクチャーの内容の理解度があまり変わっていないのではないかと感じた。また、リスニング能力を測る機会があればよかったと思った。スピーキング能力というのはそう簡単にあがるものではないし、発音についても最初と変化がないため。
- 授業ではディスカッションがメインだったので、自分もあまり日本的すぎる英語にならないように意識した。リスニングはやはり1回聞いただけでは分からないので「向上した」と実感できるところは少なかったかもしれない。

一方、スピーキング能力については、授業のメインの活動であったディスカッションが、スピーキング力の

向上を実感させることにつながったようである。

- スピーキング・ディスカッションの機会があまりなかったため、英語を話すいい機会になった。
- ディスカッションなどを通し、スピーキングする機会もできて、今まではスピーキングが苦手だったけど、伝えようとすればうまい英語でなくても伝えられたので、苦手意識がなくなってよかった。
- また、授業中に話すことで普段しない英語でのディスカッションもでき、スピーキング能力につながったと思う。
- ディスカッションをとしてリスニングとスピーキングが向上したと思う。
- リスニングの量としてはレクチャーが短く、少なかったため向上したかどうかは分からないけど、スピーキングはみんなとディスカッションする機会は今までなかったため英語を使う機会が増え、最初よりは少ししゃべれるようになったと思う。
- とくにスピーキング能力が初回に比べて上達したと思う。スピーキングの時間がたっぷりあったので、積極的に話せるようになった。
- 授業内でのスピーキング活動では、なかなか発言できなかったため、自分自身に反省の意を込めて「3」にしました。

最後に、グループワークで行ったリプロダクションを中心とする活動について、プレゼンテーション能力の向上に対する意識について尋ねた結果について考察する。表8は、プレゼンテーション能力が向上したと思うかどうかを、5段階(1「全くそう思わない」、5「大変そう思う」)で評価してもらった結果をまとめたものである。

表 8. プレゼンテーション能力が向上したと思う

評価スケール	人数	%
5: とてもそう思う	2	10
4: ややそう思う	12	60
3: どちらとも言えない	6	30
2: あまりそう思わない	0	0
1: 全くそう思わない	0	0

リプロダクションの機会は半期間を通じて2回与えられたが、1回目は、レクチャーを聞いてノート・テイキングをすることを課題とし、2回目は、それに加えて、レクチャーのサマリーを冒頭につけることと、トピックに関連してリサーチしたことを盛り込むことを課題とした。プレゼンテーション能力の育成ということは、本授業科目の主要な目的ではないので、とりわけ、プレゼンテーション能力を伸ばすよう明示的な指導はしていない。しかしながら、70%の受講生が、プレゼンテーション能力が向上したと感じている。このことは、リスニングを中心にして、なかり総合的な英語力を伸ばすことができることを示していると捉えることもできるだろう。

- Presenter, Reporter をそれぞれ2回行う機会があったから。
- プレゼンは、前期の先生の授業⁶では一文一句、事前に紙に書いてプレゼンしましたが、後期はそん

⁶ 2007年度前期には、英語アドバンス科目として、英語によるプレゼンテーション能力の育成を目的とした English Project Work という科目を開講した。

なこともなく、その場で考えたこと文章を使って下書きなしでできるようになりました。まだまだうまくはいけれど、以前よりもだいぶよくなったんじゃないかなと自分では思っています。前期はプレゼンの基礎で、後期は演習っぽかったです。

- Reporter になったときは、それなりに即興力が鍛えられたと感じました。
- 担当分の発表(プレゼン)だけでしたが、言う内容やレジュメの作り方などが学べてよかったと思います。
- 英語での報告をしてみて、それほど難しい内容ではなかったので、自由に報告をすることができた。
- レクチャーを聞いて、それを自分でまとめてプレゼンするというのは初めてだったが、レクチャーをうまくまとめて話すやり方が少しずつ分かってきた。
- 自分が発表する際にレジュメを作り、準備をし、実際に人前で話したのでよかったと思う。
- 英語でプレゼンテーションする機会がほかではほとんどないからよかったと思う。
- はじめはとても緊張したが、だんだんリラックスして話せるようになった。
- カンペなしで、その場で自分の考えをまとめ、発表する機会ができたから。
- ハンドアウトを用いて大事なところを紹介したり、例を紹介したりと、自分なりにわかりやすくなるよう心がけることができました。プレゼンの向上も、あとは経験を積んだりして、自分次第になってくると思います。
- 問題提起、結論などのフレーズが身についたのではないと思う。また、ハンドアウトを見やすくするような工夫を心がけられた。

一方、プレゼンテーション能力の育成という視点から、あらためて本授業を振り返ってみると、人を惹きつけたり十分納得させるための工夫や、発表を担当する機会が少なかったこと、プレゼンテーションそのものは評価されていないなど、いくつか改善の余地は残されている。

- まだまだ自分的には力不足だったと思う。
- うまくまとまっているか、わかりやすいかは自分で判断しにくいので....
- A4一枚にまとめて発表する方法が分かった。しかし、2回だけだったので自分のがよかったかどうかははっきりは言えなかった。
- 自分がプレゼンをする機会が2回しかなく、しかもそのプレゼンの評価というものはしてもらっておらず、自分のプレゼンのどこがよくてどこが悪いのかわからなかった。
- プレゼンテーション能力は向上したと思う。しかし、形式的な形になってしまい、今ひとつおもしろみに欠けた部分もあった。やはり、どうしたらプレゼンがおもしろくなるか、工夫をする方法も学びたかった。

3.3 授業内外の活動に対する意識

ここでは、授業内外で行ったさまざまな活動それぞれに対する受講生の意識について考察してみたい。表 9 は、それぞれの活動に対して、5段階(1「不満足」、5「大変満足」)で評価してもらった結果をまとめたものである。なお、自由記述回答の後に()書きで示したものは、筆者による。

Lecture Listening は、75%の受講生がほぼ満足したと回答しており、すでに述べたように、何度も聞くことができたこと、それによって耳が慣れたことなどが主な理由となっている。しかし、レクチャーの時間が短いこ

と、レクチャーの英語の難易度がやや易しいことなどの問題点も指摘されている。レクチャーの聞き取り、ノート・テイキングの練習にとっては、概ね妥当なレベル設定だと思われるが、さらに意欲的な受講生のニーズにどう対応するかが今後の課題である。

- 授業外でリスニングすることができたのはよかった。何回も聞けたので、自分が理解できるまで聞けてためになった(Lecture Listening)。
- テキストの難易度はもう少しだけ難しくてもいいかなと思った(Lecture Listening)。
- レクチャーとはいえ、5分程度ではリスニング力に耐える力がついたかどうかは定かではない。自分は留学するが、フル英語の授業と5分程度のものがどれほど違うかは確かめてこようと思う(Lecture Listening)。
- 「聞く」ことに関しては納得いくまで、十分に聞けたのでとても満足しています。(Lecture Listening)
- 家でレクチャーを聴くときはなんとなく内容は分かっているけど、詳しいことが分かるまで、やはり5回くらいは聞いていました。でも、回を重ねるごとに、耳も慣れて、少しずつ回数も減って聞きとれるようになりました(Lecture Listening)。

表 9. 授業内外で行った活動に対する評価 (単位:人)

観 点	評 価	1	2	3	4	5
[授業外] Lecture Listening		0	0	6	9	5
[授業内外] Note-taking		0	1	5	7	7
[授業内外] Outline telling based on your notes		0	0	5	12	3
[授業内] Discussion		0	0	1	11	8
[授業内] Extensive Listening		0	0	2	9	9
[授業内外] Writing Assignment		0	0	9	10	1

Note-taking は本授業のメインの活動の一つであったが、当初の予想に比べると満足度はそれほど高くなく、大変満足ないしはほぼ満足していると回答した受講生は 70%にとどまった。ノート・テイキングの練習の機会が多く与えられたことに対しては満足しているようであるが、お互いチェックするような機会があれば、さらによかったかもしれない。2 回目の発表のときには、ハンドアウトについて教員からコメントをしたが、受講生同士がチェックし、今面とする機会を与えると、ノート・テイキングの活動がより一層活発になったと考えられる。

- メモのとり方などを教えてもらえたのはよかったです(Note-taking)。
- ノートをとるのが下手なので、たくさんの練習ができてよかったと思います(Note-taking)。
- Note-taking や Writing Assignment で、自分の間違えたところ、直せばよいところを添削していただく、もしくは、他の人のノートと比べるなどして、気づけたらもっとよかったと思う(Note-taking / Writing Assignment)。

以下には、いくつかの活動について複合的に意見が述べられているものが多いが、聞いたことに対してディスカッションの機会があったこと、その場で聞いて内容を報告する Extensive Listening の機会があっ

たことなど、Discussion や Extensive Listening の活動もかなり満足度が高かったようである。ただ、授業計画の段階ではもう少し行う予定だった Extensive Listening を、実際にはあまり多く行うことができなかった。それは、レクチャーにもとづくディスカッションが、予定したよりも毎回盛り上がり、かなり時間を割いたことによる。興味深い現象だが、ディスカッションをはじめてすぐは、みんな比較のおとなしいのだが、10分、15分をすぎたあたりから、議論や意見交換が活発になり、盛り上がりをみせるので、ディスカッションの時間を10分くらいで打ち切るのを途中からやめたため、Extensive Listening の時間を十分にとることができなかった。

- ディスカッションになると必ず毎回何かしら面白い話題になって盛り上がれた。1年次、2年次前期の必修の英語の授業では、こういった「喋る」練習はまったくなかったのので、新鮮でした。1年次、2年次の授業でも取り入れてみたらと思いました (Discussion)。
- 「話す」ことに関して、自分としてはもっと発言していきたくかったです (Discussion)。
- Extensive Listening の回数が少なかったのでもう少しやりたかったなと思います。(Extensive Listening)
- Lecture Listening も Note-taking も、授業内だけでなく、これから先も役にたつスキルだと思うので、授業で学ぶことができてよかったです (Lecture Listening / Note-taking)。
- 宿題で聞いて、授業でディスカッションという流れはとてもよかったです (Lecture Listening / Discussion)。
- Extensive Listening は、映画を見て穴埋めをするのが難しかったが、Lecture Listening がいかに聞き取りやすい英語で喋ってくれているかを実感した (Lecture Listening / Extensive Listening)。
- 映像を見ながらレクチャーを聴いて理解しようとすることは、とてもよかったです。また、Note-taking によって聞き取る力やまとめる力もついたと思います (Lecture Listening / Note-taking / Extensive Listening)。
- 教材をフル活用することで、リスニングだけでなく、スピーキングやライティングの能力を高められたと思います。Extensive Listening をもっと活用したいです (Lecture Listening / Note-taking / Extensive Listening)。
- 授業内で扱った Discussion や Extensive Listening は、非常にためになりました。Note-taking においても、効率のよい方法を学べたので、これからの参考にしたいです (Discussion / Extensive Listening / Note-taking)。

Writing Assignment に対する満足度はあまり高くない。レクチャーの概要を英語でまとめるような形式の問題を毎回2問、ウェブ上で記入するというもので、受講生全員が他人の書いた回答も閲覧可能になっており、提出期限後に、教員が模範解答をアップすることにした。模範解答を自分のものと見比べて検討するよう指示したが、中には添削を希望する者もいたようである。また、本来、授業中に書いてもらう時間を取る予定だったが、授業外での課題となってしまうことで、以下にあるように、必ずしも有効に機能しなかった可能性がある。また、受講生の感想にはないが、この活動で求めていることは、ノート・テイキングおよびハンドアウト作成の段階でほぼ達成されているので、受講生にとってはあまり意味を持たない活動に感じられたかもしれない。

- Writing Assignment がなかなかその週のうちにできなかった (Writing Assignment)。
- 授業外でリスニングするところまではできたが、適当になってしまうときがあり、もっと積極的に取り組み

ばもっと成果も出たと思います。Writing Assignment は書き忘れてしまうことが多かったです (Lecture Listening / Writing Assignment)。

- 難しいと思いますが、Writing Assignment で、もし自分が気づかないような文法ミスなどがあれば直してほしかったです (Writing Assignment)。
- Writing Assignment のことを忘れていて、していないことがあるので反省しています。もっときちんと予習・復習しないと、自分に反省しています (Writing Assignment, 全般)。

3.4 授業全般に対する意見・感想

最後に、授業全般に対する意見・感想について記述してくれた回答を列挙する。

- 最初と最後にリスニングのテストを行って、自分のリスニング力が伸びたかどうかを確認できたよかった。しかし、この授業を通して、英語の講義に慣れることができてよかった。
- 欲を言うと、ノート・テイキングにプラスして、難しい単語やイディオム(学問的、時事的)に触れる機会があればもっとよかったかなと思いました。
- オンラインで、自由に(音声を)ダウンロードできたことは非常によかった。デジタル・オーディオ・プレーヤーに入れて持ち運べるので非常に便利だ。
- 英語は使えないと意味がないと、重ね重ね実感しました。大学内の様々なセミナーや語学研修など、もうちょっと積極的に活用してみようと思いました。
- 英語に対して意欲のある人たちが集まっていたのが一番良かったです。
- これくらい有意義な授業が1年次の時から受けられたらよかったのに、と思いました。また機会があればいいのになあと思います。
- 1年次の時もオーラルの授業でプレゼンの時間はたっぷりあったのですが、グループディスカッションの時間が少なかったため、他人から刺激を受けることが少なかったように思います。でも、この授業は、たっぷりスピーキングの時間をとってくれたので、楽しく、かつ、ためになるものでした。
- 全体を通じてとても意義ある授業だったと思う。こういう活発にアウトプットできる授業、時間をもっと日常的に増やせたらいいなあと思う。とくに、ディスカッションはこれまでの授業ではあまり機会がなかったもので、とてもいい勉強になったと思う。
- やりがいのある楽しい授業でした。1年生の頃のリーディングやオーラルはただ教科書を読むだけで、あまりおもしろくありませんでした。単調でなく、目的のはっきりした授業は、やりがいがあると思います。
- この授業以外でリスニングをすることがあまりないので、継続的に英語が聞けて良かったです。1年次のオーラルの授業では、中学生の時にやった英会話のようなとても簡単なものばかりだったので、その頃からもっとアカデミックな内容も聞ける練習をしていたらよかったと思います。
- 授業は楽しかったし、ためになったと思う。ただ、自分の番でないときにノートをとらないこともあったので、毎回提出形式にすれば、嫌がられるかもしれないけれど、やるのではと思いました。
- 英語が苦手で、とくにスピーキングはまったくでしたが、少しはましになった気がします。
- 理系の受講生が少なくははじめは不安でしたが、案外楽しくやれて良かったです。
- それぞれの英語力に応じて授業を受けられるので、それほど負担にならなかった。授業は、結構話しやすい雰囲気でした。

- リスニングとスピーキングが同時にできて、効率的に、英語の学習をすることができました。
- 他学部レベルの高い人たちと一緒に英語ができてよい刺激になりました。
- リスニングだけでなく、スピーキングやプレゼンテーションの力などもつけられてよかったと思います。

4. まとめと今後の課題

筆者が2007年度後期に担当した「英語アドバンス科目: Contemporary Academic Listening」は、その名の通り、1～2年次前期のベーシック科目の履修を終えた学生が、さらに上級のリスニング力を身につけようと選択履修する科目である。本稿では、これまでの筆者が行ってきた授業実践の失敗を踏まえ、さらに実証的データに基づく知見も踏まえて、どう授業設計し、いかに授業運営し、授業を展開したかという試行錯誤の過程をできるだけ詳細に記述し、こうした授業に対する受講生の意識調査から、この授業の何がよくて何がダメなのかを、いずれも公平に洗い出してみようと試みた。

最後に、アンケート調査を踏まえて、今後の授業改善のポイントとなると考えられる点をまとめておきたい。

- ノート・テイキングの目的意識を高める 発表回数を増やす、ハンドアウトの毎回提出など、いろいろ考えられるが、学生同士でハンドアウトを検討し、コメントする *peer-checking & comment* といった機会を設定すること、ハンドアウトを回収し教員もコメントし、フィードバックを行い、ノート・テイキング力を実感できるようにすること、などを検討したい。
- 評価・チェック・フィードバック機構の充実 ノート・テイキング、ディスカッション、Writing Assignment のいずれの活動においても、何らかの評価やフィードバックが与えられるよう、具体的な方策を講じる。
- 個人のニーズやレベルにあわせたさらなる工夫 採用テキストのレベル再考、Extensive Listening の時間確保とコンテンツの充実を図る。
- 語彙習得の充実 聞いて分かる、話すときに使える、いわゆる音声語彙と表現の指導の充実を図る。それと同時に、トピックに応じた内容語の習得もできるよう、何らかの工夫をする。
- リスニング力の測定と管理 授業の前後で(スピーキング力も含めて)、リスニング力を測定するテストの実施、日頃のリスニング活動の学習記録の管理など。

以上のような点を踏まえて、今後の授業デザインに具体的に活かし、実践を試みたい。また、今後は、リスニング力の伸長にも焦点を当てて、実証的データとともに考察したいと思う。さらに、1～2年次までに開設されている英語ベーシック科目(必修)である「英語オーラル I, II, III」の授業デザインを考える上でも、今回のデータに参考にし、それぞれの科目が相互に有機的関連性をもつよう、トータル・デザインの構築も視野に入れて取り組んでいきたい。

引用文献・参考文献

- 横川博一(編) (2006) 『第二言語教育・研究のためのデータベース: 日本人英語学習者の英単語親密度<文字編>』, くろしお出版。
- 横川博一 (2007) 「生起頻度・親密度の観点からみた日本人英語学習者の自発的発話における使用語彙」『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』 No. 3, 59-78.
- 横川博一・鈴木正紀 (2006) 「海外短期英語研修の口頭英語面における効果と測定」 第10回日本言語テスト学会, 口頭発表資料。

参考資料

Contemporary Academic Listening アンケート

このアンケートは、授業研究及び授業改善のための資料として用いられます。回答結果は統計処理を行いますので、個々人のデータとして用いられることはありません。また、授業の成績評価とはいっさい関係ありませんので、ぜひ率直にお答え下さい。

神戸大学・国際コミュニケーションセンター 横川博一

()学部 ()年 学籍番号()

I Contemporary Academic Listening を受講して、どの能力が向上したと思いますか？

以下の項目について、あてはまるところを○で囲んでください。

1 全くそう思わない 2 あまりそう思わない 3 どちらともいえない 4 ややそう思う 5 とてもそう思う

リスニング能力が向上したと思う	1	2	3	4	5
スピーキング能力が向上したと思う	1	2	3	4	5

上のように評価した理由を書いてください。

プレゼンテーション能力が向上したと思う	1	2	3	4	5
---------------------	---	---	---	---	---

上のように評価した理由を書いてください。

II Contemporary Academic Listening の授業について

以下の項目について、あてはまるところを○で囲んでください。

1 全くそう思わない 2 あまりそう思わない 3 どちらともいえない 4 ややそう思う 5 とてもそう思う

1. 授業全体について

熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5
語学力の向上につながったと思う	1	2	3	4	5
授業全体に満足した	1	2	3	4	5

意見または感想を自由に書いてください。

2. グループワーク (Lecture Review, Discussion など)

熱心に取り組んだ	1	2	3	4	5
語学力の向上につながったと思う	1	2	3	4	5
グループワークに満足した	1	2	3	4	5

意見または感想を自由に書いてください。

3. 授業内外で行った活動の満足度を、1 (不満足) ～5 (大変満足) で評価してください。

[授業外] Lecture Listening	1	2	3	4	5
[授業内外] Note-taking	1	2	3	4	5
[授業内外] Outline Telling based on your notes	1	2	3	4	5
[授業内] Discussion	1	2	3	4	5
[授業内] Extensive Listening	1	2	3	4	5
[授業内外] Writing Assignment	1	2	3	4	5

意見または感想を自由に書いてください。

III 授業に関する意見、感想など自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。